

# 足寄・白糸山崎牧場 春の花

植物の固定人：高橋尚樹 写真：ydooffice/Fuji FinePix/2015 June 8 ~ 27



サクラソウ (日本サクラソウ)

サクラソウ科サクラソウ属の多年草。日本のサクラソウ類の代表で、野生の群落をみることはまれ。これは野生かどうか???



ヒオウギアヤメ

葉の出方が楡扇に似ること由来する。文仁親王妃紀子のお印。



ロサ・カニナ (ドックローズ)

高さ(長さ)300cmになる半つ性のバラ。棘の多い枝をいっぱい張り、直径3~5cmの花は白またはうすいピンク色の一重。赤果実をつけるが、この果実がローズヒップ。ハーブティーに利用する部位は収穫した果実を乾燥させ、砕いて実の中のタネや細かい毛のような物を取り除いた果実の果皮で、ローズヒップティーとして一般的に市販されている赤くて固い殻のような物は果実の殻の部分。

ローズヒップはハーブティー以外にジャムなどの加工食品としても利用される。

科名：バラ科バラ属

和名：イヌバラ、別名：ワイルドローズ。



キバナコウリンタンポポ

ヨーロッパから輸入された牧草種子に混じって北海道に帰化した、らしい。なかなか良い感じの野草で、是非東京に持ち帰りたいと思う。



オオデマリ

高さが2~3mになる低木で、5~6月に球状に密集した花を咲かせる。花のかたまりは直径10cmを越し、まさしくオオデマリ(大手鞠)の名がぴったり。英名のスノーボールもこの花姿から来ている。花の咲き方や雰囲気などがどことなくアジサイに似ている。秋に紅葉して冬は落葉する。廃屋の荒れた庭に沢山見られた。



クサノオウ

茎や葉を切ると中から出てくる黄色い汁。この汁に各種のアルカロイドを含み、強い毒性を持ち、皮膚に触れただけで炎症を起こす。うっかり口に入れようものなら嘔吐、下痢、昏睡、呼吸麻痺、手足のしびれを起こす。人によっては花に近づいただけで皮膚がかぶれたりするから要注意だ。

昔はこの毒性をうまく使って、鎮痛剤に利用したり、アヘンの代用として使われたという。尾崎紅葉が胃癌にかかった時、弟子の泉鏡花が、このクサノオウの葉を入手するために大変苦労したという話が残されている。日本全国ではこの野草を別の名で呼んでいるところがたくさんある。イボトリ、イボグサ、タムシグサ、ドクノオウ、チドメグサなどなど、さまざまにある。いずれも皮膚病の薬草として広く知られ、各地で独特の呼び方をされていた。



カンボク

カンボク(肝木)は、スイカズラ科ガマズミ属の落葉小高木。日本各地に分布するが、特に東北・北海道の山地に多く見られる。枝先にガクアジサイに似た花をつける。花の後にできる実は水分を多く含み中に種が1つある。赤く熟し、葉が落ちた後もそのまま残る。





コシカギク (オロシャギク)

キクと名付けられているが舌状花がなく筒状花だけで、花弁をむしり取られた坊主ギクと呼ぶのがふさわしいような菊である。別名オロシャギク (オロシャとは現在のロシア) というように北東アジアあたりの帰化植物。



ユキザサ

白い花を雪に、葉をササにたとえてユキザサ。北海道ではアズキナと呼ばれ、これは茹でると小豆の香りがするところからきている。若芽や若葉はおひたしで食べる。また、根や根茎は鹿薬 (ろくやく) という名の生薬として利用されている。頭痛、リウマチによる疼痛などに効果がある。

花後にできる実は球形の液果で、赤く熟し有毒である。

クリンソウ

北海道～本州、四国の山間部に分布する多年草で、サクラソウの仲間。湿り気のある環境を好み、山野のせせらぎや溪谷の湿地に自生する。



セイヨウノコギリソウ (ヤロウ)

日本には明治時代に渡来する。繁殖力が強く、本州と北海道の一部で野生化している。その生命力の強さは、堆肥用の生ゴミに一枚の葉を入れるだけで急速にゴミを分解していく。また、根から出る分泌液は、そばに生えている植物の病気を治し害虫から守る力があり、コンパニオンプランツのひとつといわれている。葉が鋸の歯のように細かく裂け、ヨーロッパ産であることからこの名がきている。英名をコモンヤロー (common yarrow) という。欧米では外傷用の薬草やハーブサラダとして用いられてきた。牧場入口に続く道道 468 号の脇に沢山あった。庭に少し植えておくと良いと思う。



ホワイトキャンピオン (シレネ・ディオイカ "アルバ")

Silene alba、別名：ヒロハノマンテマ、マツヨイセンノウ、フウリンカなど ナデシコ科の植物で耐寒性多年草。ヨーロッパを原産とする多年草のシレネで、春～初夏に白いかれんな 5 弁花を咲かせる。花には香りがあり、特に夕方に香る。



ペロニカ・プロストラータス 'ミセス・ホルト' ゴマノハグサ科の多年草。可憐な花をたくさん咲かせるペロニカ。冬でも枯れない葉は一年を通してガーデンの彩りに最適。花壇の縁取りやハンギングにもおすすめ。ミセスホルトは桃色の花。春～秋に繁った茎や葉は地際の芽を残して切り取ると、冬越ししやすくなる。



タモギタケ



タモギタケ

野球のバットの原料にもなる「タモの木」から生えていたので「タモギタケ」、東北から北海道にかけて自生するきのこで北海道で一番食べられている。ダシが良く出て香りが良く、美味しいキノコで、近年機能性も注目されている。

- ①免疫力をアップする効果が期待できるβ-グルカンが豊富！
  - ②美白や保湿・アンチエイジングが期待されるエルゴチオネインを含む。
- その為サプリメントや化粧品にも利用されている。



セキチク

ナデシコ科ダイアンサス属。元々は中国原産で、ヨーロッパで改良された。「石竹」と書くが、葉が竹の感じに似ているところからこの名前が付いたと言われる。ダイアンサス属は、カーネーションも含まれ、通常はカーネーションを除いたものを総称して「ダイアンサス」と呼ぶ。日本では、秋の七草の一つであるカワラナデシコをはじめ、4種が自生する。ヨーロッパ原産のタツタナデシコやヒメナデシコ、北米原産のヒゲナデシコなどが古くからダイアンサスとして鑑賞されている。



ラズベリー

ラズベリーは、バラ科のキイチゴ属に分類される低木性落葉果樹。キイチゴの仲間は、日本にも多くの野生種が自生している。完熟した果実は、まさに赤や黄色の宝石のようだ。病害虫に強く、家庭での栽培が容易。果実は生食のほか、ジャムやジュースなどにも適しており、まさに自家栽培向けの果樹で、牧場の周りに沢山あった。牧場内にもブルーベリーの辺りにあった。



ニワザクラ

古名を「はねず」といい、万葉集にも詠まれている。一重咲きの庭梅（ニワウメ）の近縁種で、八重咲きである。バラ科 サクラ属。耐寒性、耐暑性とも強く育てやすい花木。



シャジクソウ

シャジクソウ（車軸草）は、夏、頭状花序に多数の赤紫色の細長い花弁を付ける、マメ科シャジクソウ属の多年草。放射状に出る3～6枚の小葉（掌状複葉）を車軸に見立てて命名された。白話草（シロツメクサ）や赤話草（アカツメクサ）と同じ仲間。牛舎横の大きなタイヤの中に植えられていたので、前の法面に植え替えた。

